

# 医療の未来を、オンリーワンの技術で ～朝日インテックにおける新規事業創出と企業間連携～

朝日インテック株式会社  
社長室 大谷真二郎  
2025年2月27日

(証券コード7747/東証プライム・名証プレミア上場)

# 会社概要

会社名	<b>朝日インテック株式会社</b> (東証プライム・名証プレミア上場)
本社	愛知県瀬戸市暁町3番地100
代表者	代表取締役社長 宮田憲次
設立	1976年7月8日 (現在第49期目)
事業内容	医療機器及び極細ステンレスワイヤーロープ並びに 端末加工品等の開発・製造・販売
資本金	188億6,079万円 (2024年6月末現在)
従業員数	1,088名 (単体) 、9,371名 (連結) (2024年6月末現在)

# 事業分野・セグメント

2024年6月期

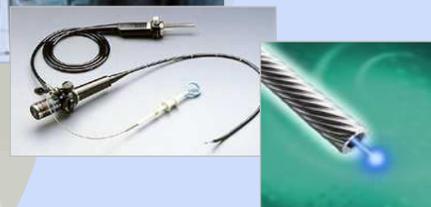
売上高 107,547百万円

営業利益 22,135百万円

**メディカル事業**  
(自社ブランド製品・OEM供給品)



**医療機器分野**  
(約96%)



**産業機器分野**  
(約4%)



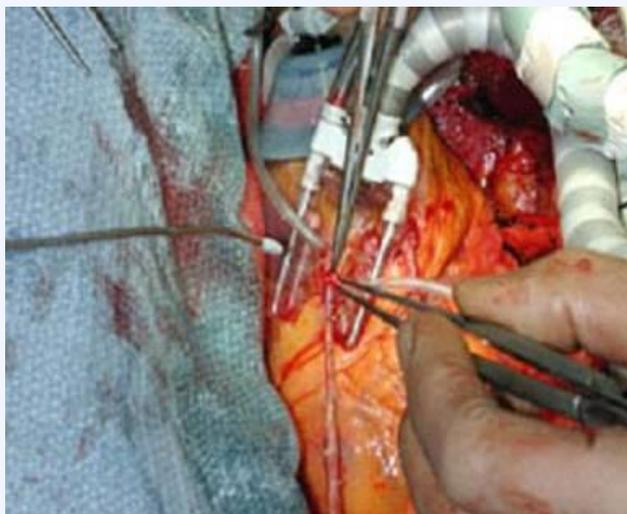
**デバイス事業**  
(医療部材・産業部材)

# 低侵襲治療（PCI治療）とは

- 冠動脈疾患（狭心症・心筋梗塞等）の治療法
- 狭窄部を広げて血流を確保
- 患者の精神的・肉体的負担を最小限に抑える為に、  
開腹・開胸する事無く、太腿や手首の血管を通じて治療を行う。

## 外科的治療

### バイパス手術



## 内科的治療

### 低侵襲治療（PCI治療）

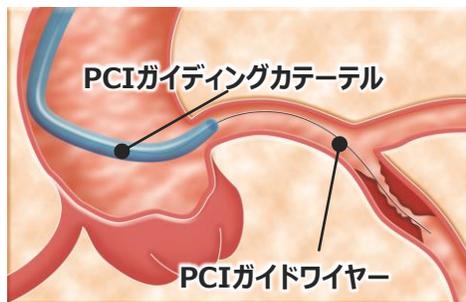


# PCI治療（経皮的冠動脈形成術）とは

PCI治療を成功させるためには、PCIガイドワイヤーが患部に到達しなければならない

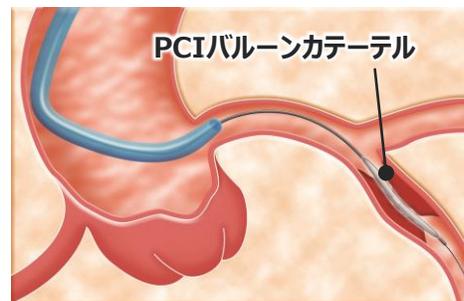
## ① PCIガイドワイヤー通過

PCIガイディングカテーテルと呼ばれる細い管を血管に挿入し、その中にPCIガイドワイヤーを通します。



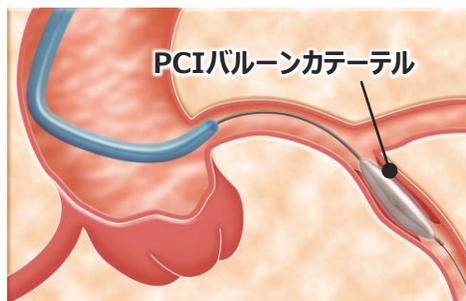
## ② PCIバルーンカテーテル挿入

PCIガイドワイヤーに沿って、PCIバルーンカテーテルを血管の狭くなっている部分まで進めます。



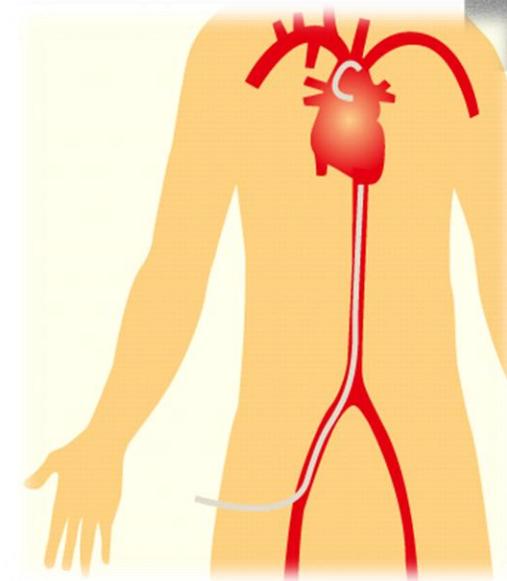
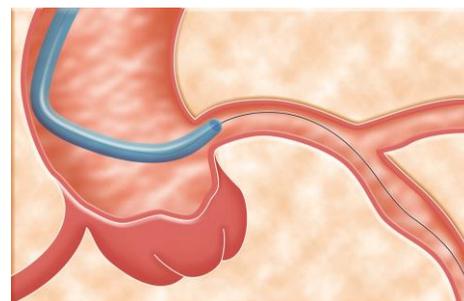
## ③ PCIバルーンカテーテル拡張

バルーン（風船）をふくらませ、内側から血管を押し広げます。



## ④ PCIバルーンカテーテル抜去

狭くなっていた部分が広げられ、血液の流れがよくなります。

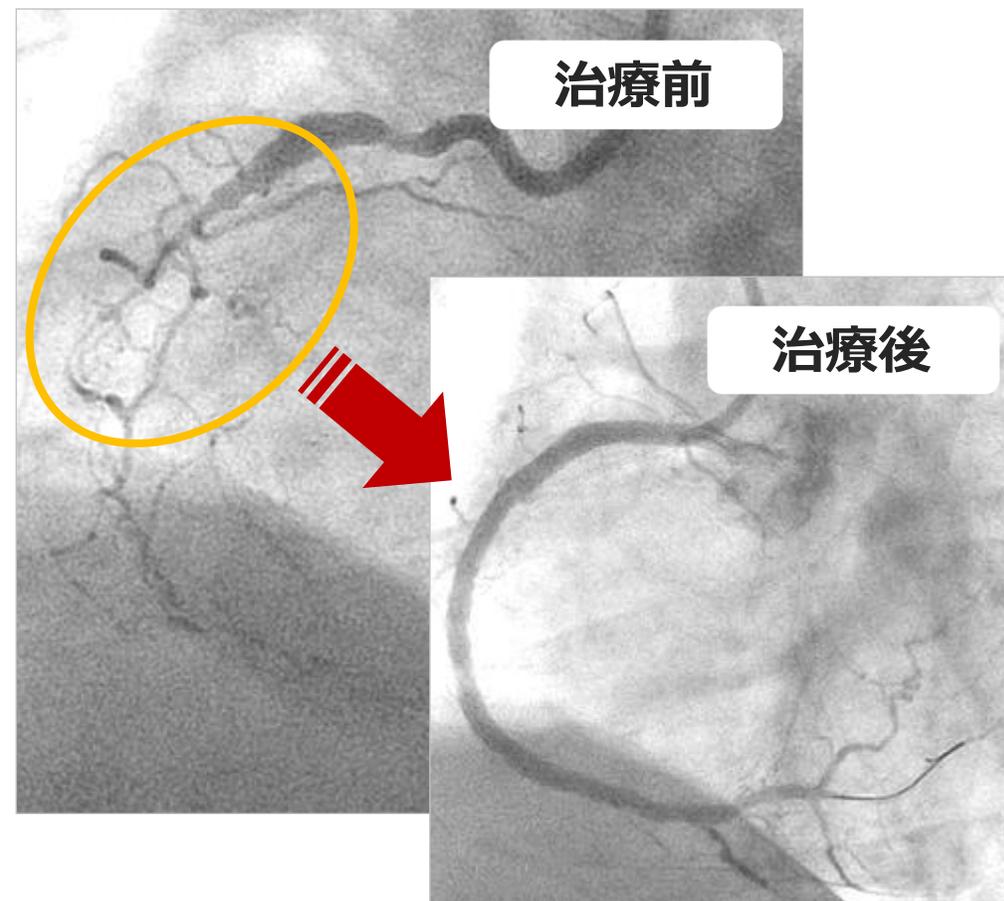


# PCI治療（経皮的冠動脈形成術）とは

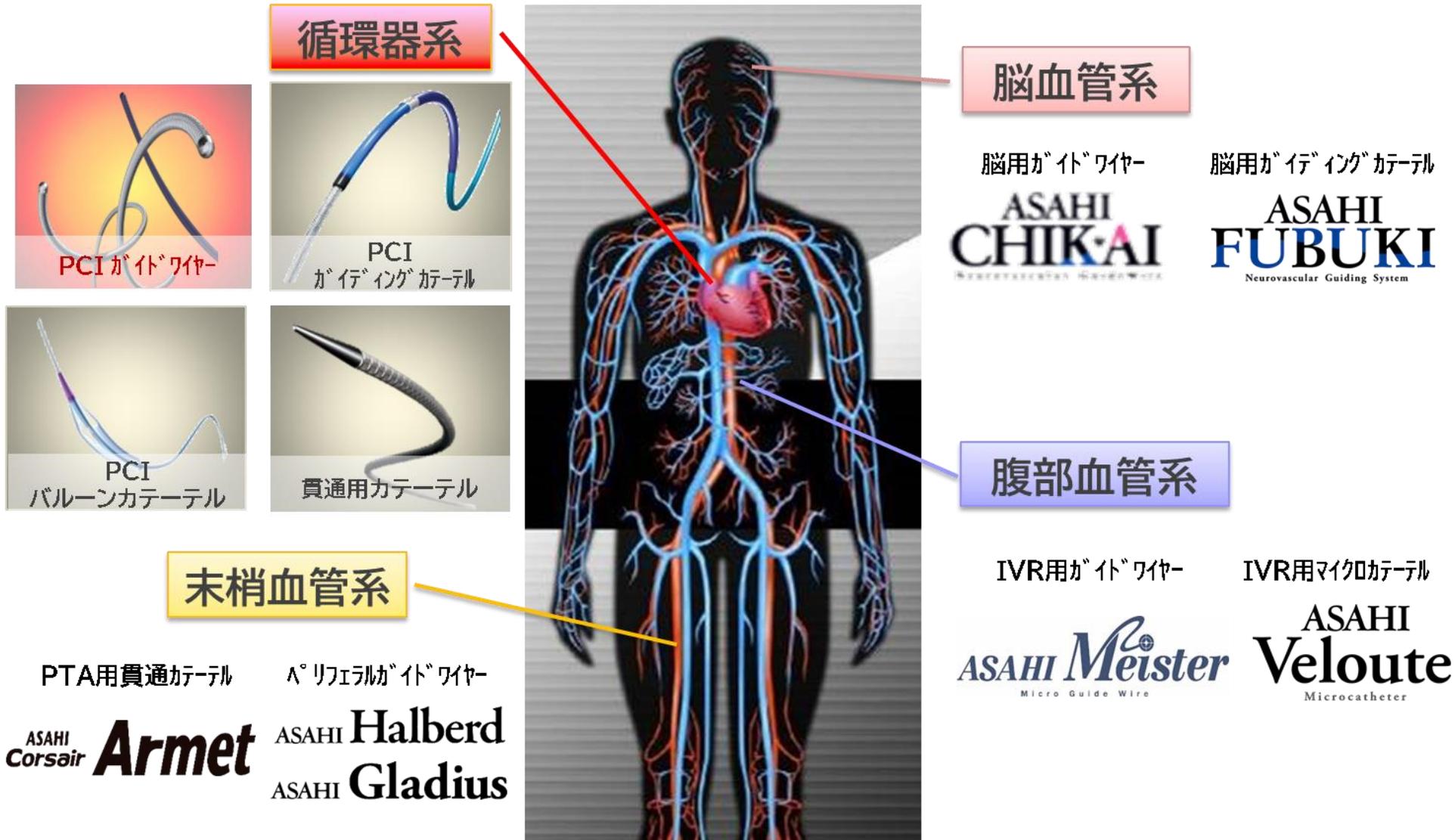
## 比較的簡単な病変



## 難易度の高い病変



# 医療機器 主要製品群



# 当社のグローバル展開とシェア

現在、循環器系製品を中心として、**118の国と地域**に販売



心臓血管用ガイドワイヤーにおいて**グローバルトップシェア**

直径  
0.35mm

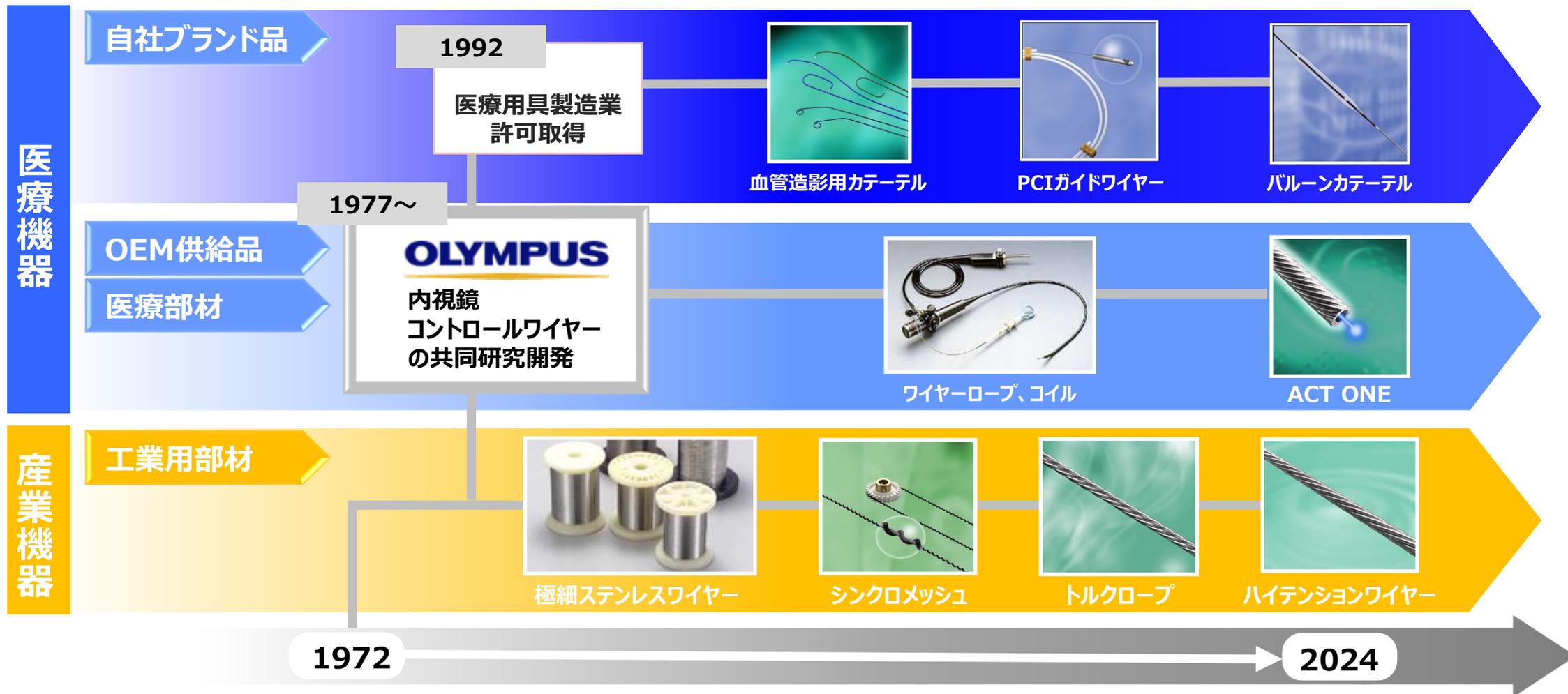


PCIガイドワイヤー拡大図



# 医療機器分野への進出

## 医療機器への本格的進出の軌跡



# デバイス事業（産業部材）の主要製品群



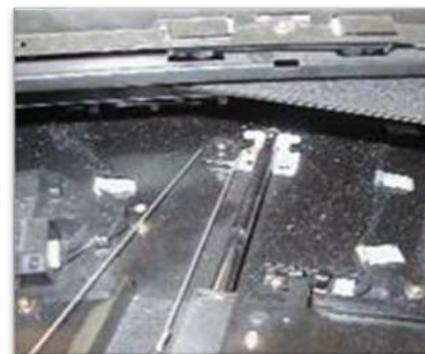
腰アシストスーツ Way-sist



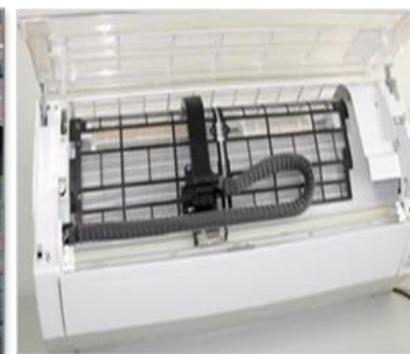
グローブライド社様  
鮎用釣糸



Boa社様 靴用ワイヤー



コピー機 駆動ワイヤー

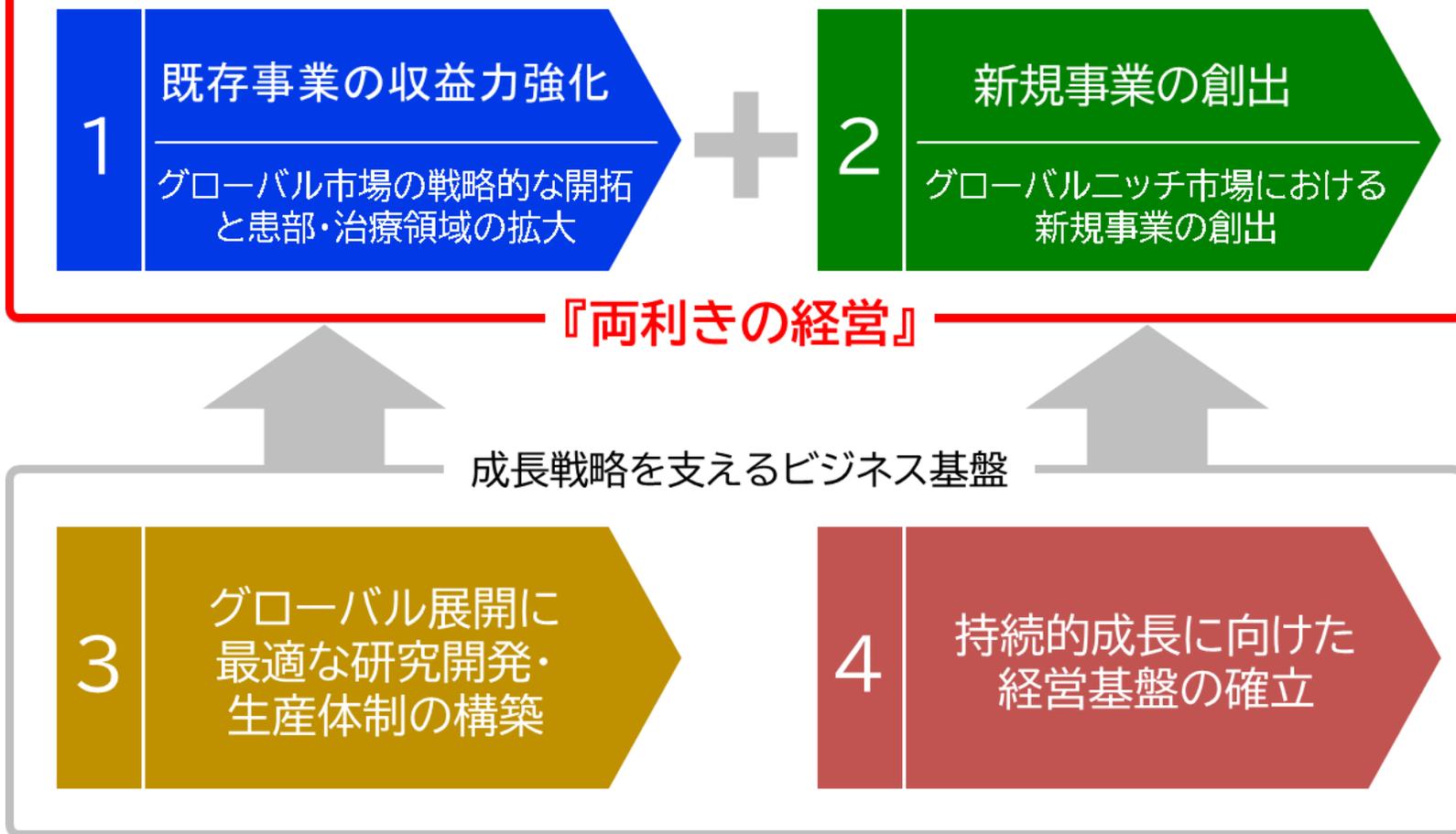


フィルター掃除機能付  
エアコン

# 中期経営計画（2022/6期～2026/6期）の基本戦略

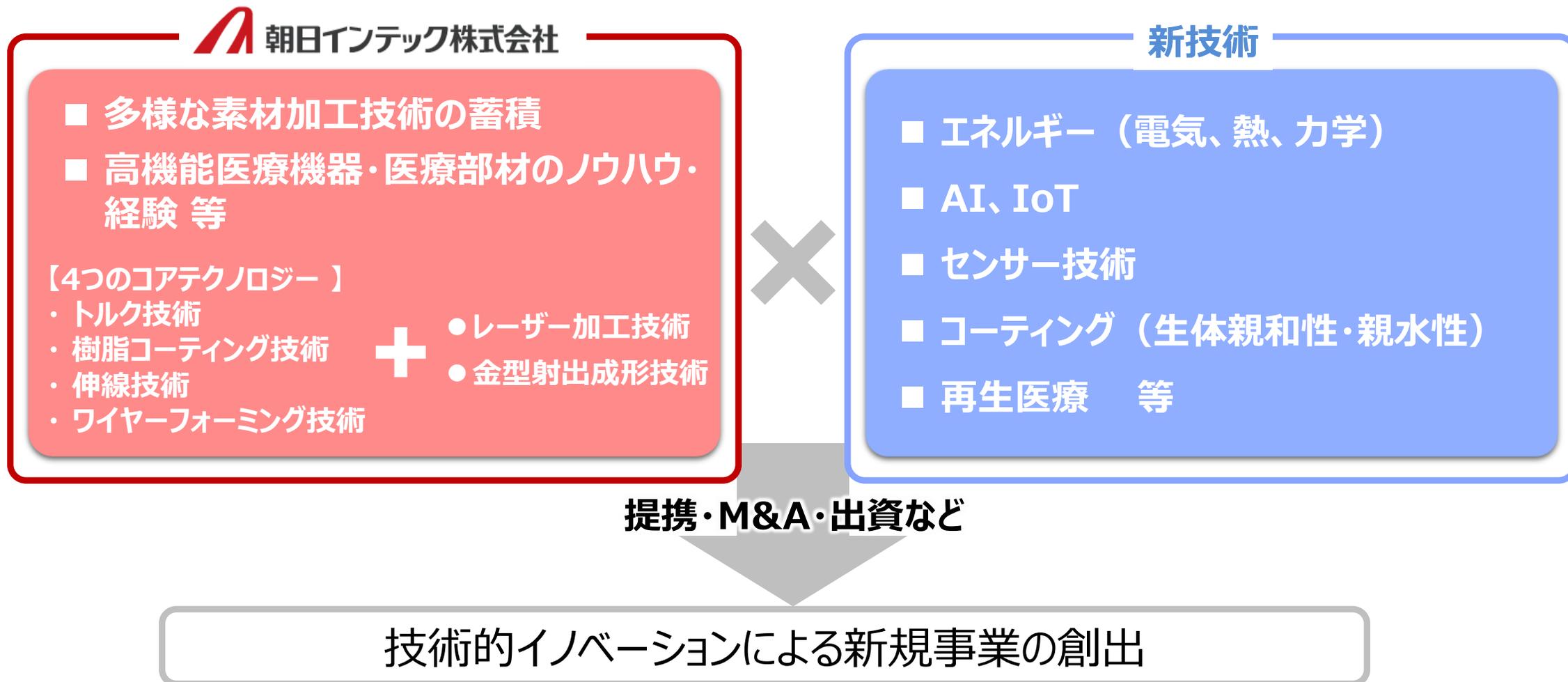
## 「ASAHI Going Beyond 1000」

連結売上高1,000億円を超えて更に成長するための事業ポートフォリオの構築

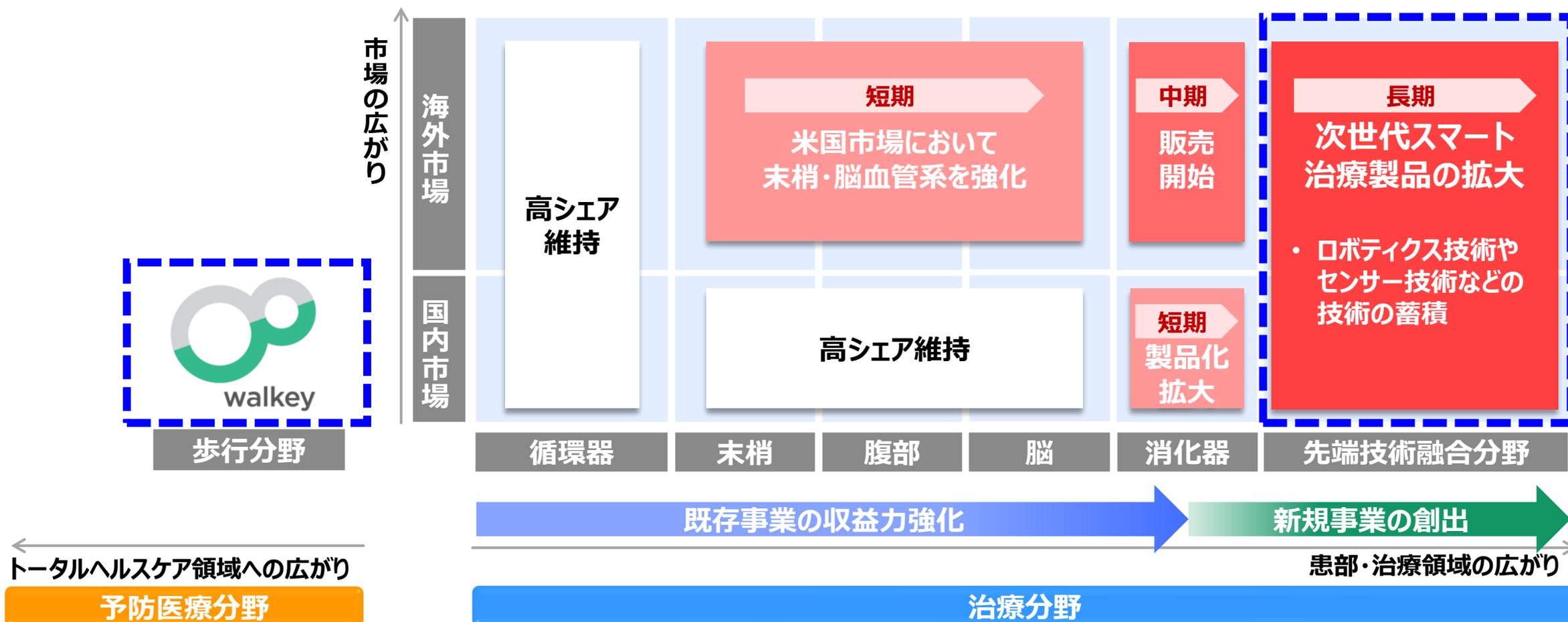


# 新規事業の創出：当社技術と新技術の融合

## 新たなテクノロジーとの融合

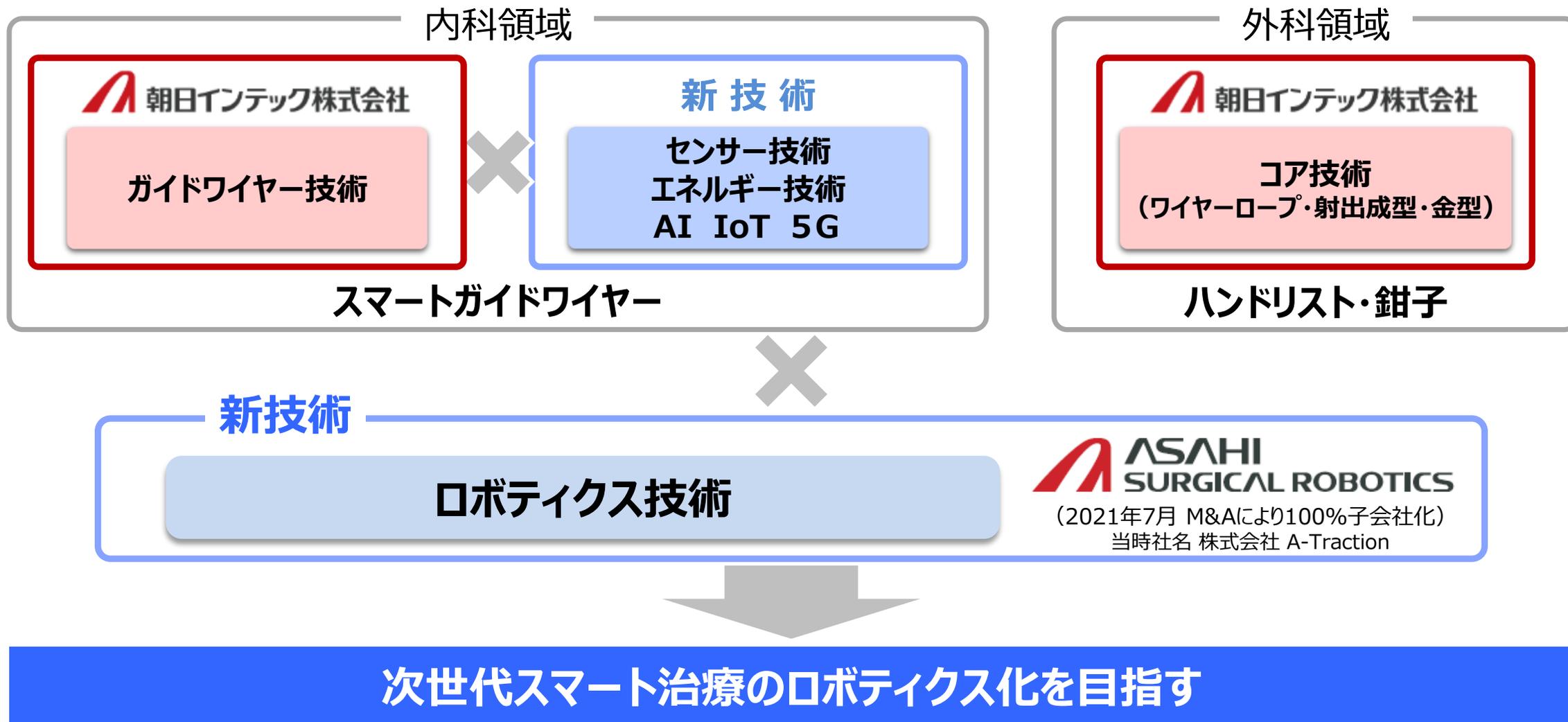


# 新規事業領域への参入【既存：治療領域】と【新規：予防医療領域】



既存の治療領域における新規事業創出に加え、新たな予防医療領域における新事業創出を目指す  
 予防医療分野において、「人生100年時代」を見据え歩き続けられる力（歩行力）培うサービスを展開

# 既存治療領域：新規事業 次世代スマート治療への取り組み



# 新規事業 外科手術支援ロボット「ANSUR」

2024年6月期に、国立がんセンター及び名市大病院 に 計2台を納入販売

## 外科手術支援ロボット **ANSUR**

### 助手の代わりにするロボット

- 術者自らがロボットを操作しつつ、従来と同様の手術を実施  
ロボットは術者ではなく、助手の役割を担う
- 機能を限定、特化することで低コスト化を実現
- 術者と共存し、直感的な動作で術具を操作可能
- 「医師の働き方改革」の対応策として期待
- 保険のロボット手術加算はないが、腹腔鏡手術全般で適用



### 他社 手術支援ロボット

#### 術者を支援するロボット

- 術者（医師）の操縦を遠隔操作
- 高コスト（2.5億円）
- 術式ごとに保険収載を申請（加算あり）



当面の目標 累計販売台数 **100台** インストール

# 予防医療領域：新規事業「walkey」



100年  
歩ける  
わたしへ

歩行専用  
トレーニング・サービス

walkey

# walkeyとは？

## 世界初、自宅でできる歩行専用トレーニングサービス

ラボで歩行力を診断。その人に合ったエクササイズメニューを提供  
 コロナ禍でも安心。自宅で専用機器・アプリを使ったプログラムの実践をサポート

### 専用ラボ



診断・メニュー提供

### 専用機器・アプリ



独自機器・アプリを貸与（販売も視野）

### 専用エクササイズ



自宅での実践をサポート

# 新規事業参入の経緯

## 【認識課題】 QOLに直結する『歩行』の重要性

- カテーテル治療分野での事業展開から、脚まわり・歩行の重要性を実感
- 『歩行』によりQOL向上に貢献することが可能
- コロナ禍での『歩行』に関するニーズの高まり

## 【技術力】 腰アシストスーツ 『Way-sist』 の製品化

- 『ワイヤーロープ技術』、『メカニズム設計技術』とその活用ノウハウ
- 複数技術を融合させて組み上げる設計ノウハウ



# 新規事業参入に向けた事業共創



ワイヤーロープ・メカニズム設計  
技術力・ノウハウ

新規事業開発推進

2020年5月 共創プロジェクト発足  
(朝日インテック×quantum)

ヘルスケア領域  
事業運営ノウハウ

新規事業開発力  
(企画立案・実行)

quantum

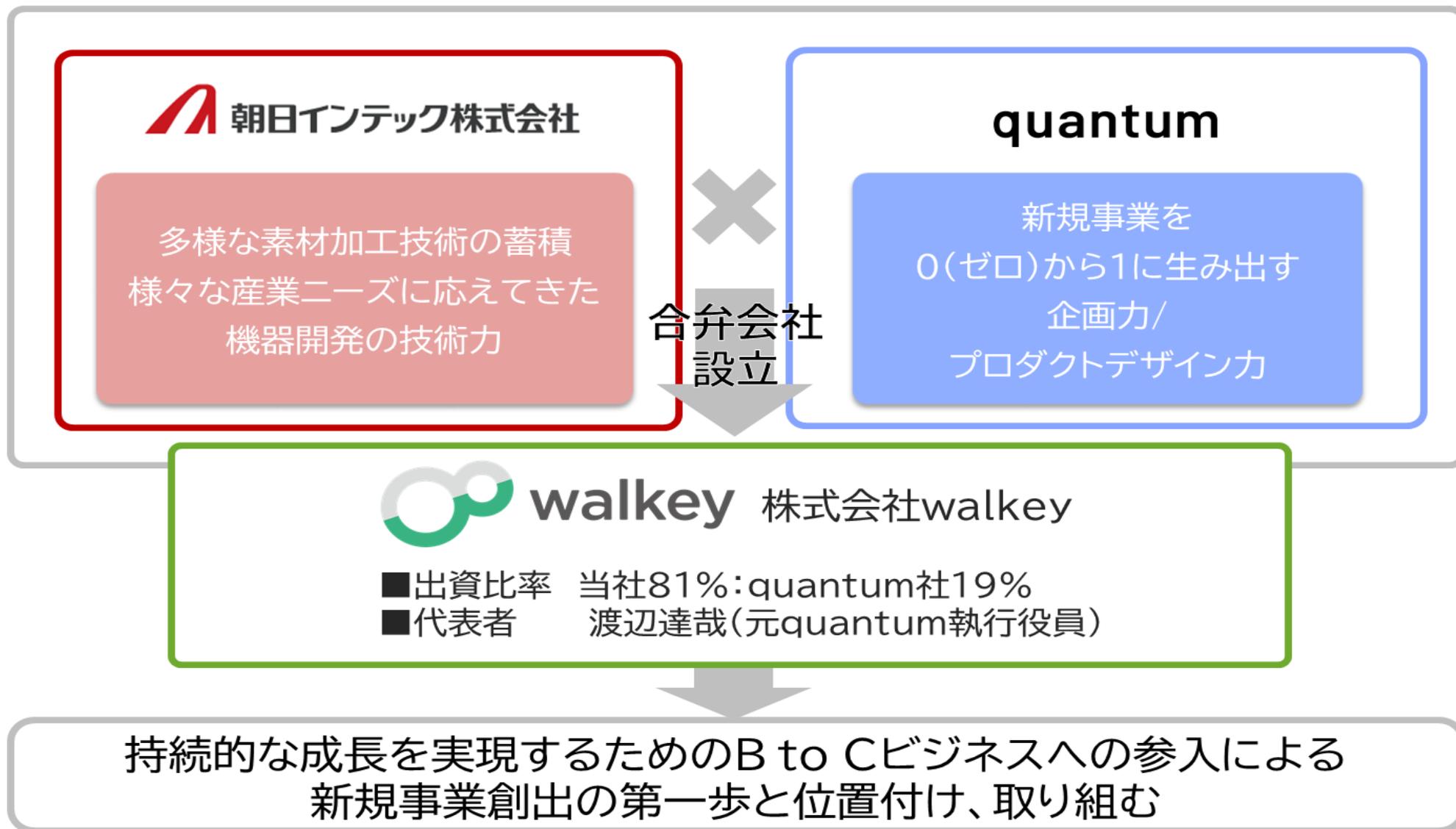
プロダクトデザイン力



株式会社モルテン様  
との共同開発製品  
クルマイス『wheeliy』

『歩行』を軸とした新規事業共創  
事業コンセプト 『100年歩ける人生を届ける』

# 当社技術の活用による新規事業（BtoC事業）への参入



# 新規事業開発における企業間連携のポイント

---

- ① 経営トップのコミットメントと許容力
- ② 事業運営責任者・参画メンバーの選定
- ③ 新規事業開発における既存事業と異なる発想ポイント
- ④ 相互の得意分野やカルチャーの尊重

# 新規事業開発における企業間連携のポイント

## ① 経営トップのコミットメントと許容力

- **新規事業開発に対して経営トップがコミット**
  - ・ 経営トップ主導のプロジェクト推進
- **定期的に経営トップ報告会を実施・方針決定**
  - ・ 提起報告会にて経営層報告・方針すり合わせ
  - ・ 経営層のレスポンスを早期に反映・軌道修正
- **経営トップの新規事業に対する許容力**
  - ・ 構想初期段階における自由な発想を許容する風土・環境セット
  - ・ 新規事業立上げ段階における事業責任者への裁量権と関与バランス



**メンバーが安心して自由に発想できる環境構築がポイント**

# 新規事業開発における企業間連携のポイント

## ② 事業運営責任者・参画メンバーの選定

- 資質だけでなく、対象事業に情熱と覚悟をもって取り組めるかが重要ポイント

### 合併企業（株式会社walkey）設立に当たっての代表者選定



株式会社walkey  
代表取締役社長 渡辺達哉 氏

- quantum執行役員として協業プロジェクトをリードした実績
- 協業プロジェクトを通じ、人柄も把握
- 合併企業設立に当たって、quantumを退職し、walkey事業に専念する情熱と覚悟

**資本構成でなく、事業推進の視点から、最も適した人材を選定**

# 新規事業開発における企業間連携のポイント

## ③ 新規事業開発における既存事業と異なる発想ポイント

### ● 自社リソースの活用ありきで考えない

結果としてワイヤーロープ活用も、構想初期段階の利用必須事項でない

**当初構想段階（拡散段階）における制約条件は可能な限り排除する**  
**事業検討段階（収束段階）において条件に合致するか検討していく**

### ● 自社の得意分野・苦手分野を見極める

新規事業領域における自社の立ち位置 『未経験の挑戦者』  
既存事業の成功体験にとらわれない

<得意分野> 顧客ニーズの具現化

<苦手分野> ゼロからの発想、プロダクトデザイン

**苦手分野をquantumとの協業プロジェクトにてカバー・事業推進**



# 新規事業開発における企業間連携のポイント

## ④ 相互の得意分野やカルチャーの尊重

- 自社だけではできないことを協業体制においてカバー
- お互いの得意分野を尊重しつつも、意見を言い合える環境を構築

### 『0（ゼロ）から1を生み出す』 quantum × 『1から10に育てる』 朝日インテック

